
「帰宅部」いいえ、「帰宅倶楽部」です。

れもね〜ど

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「帰宅部」いいえ、「帰宅倶楽部」です。

【Nコード】

N1578S

【作者名】

れもね〜ど

【あらすじ】

主人公 勇者君 悪友 馬鹿野郎 部長 よく分からないが怖い人

三人の紹介が書いてあります…

というかまだぜんぜん話し進んでないけどね

たぶんこの話読まなくても後のストーリーに影響しません

ブローグ？始まりの為のお話（前書き）

とりあえず暇があれば読んでみてください
そしてコメントなどくださったらうれしいです

これからお話がすすんでいきます

c o m i n g s o o n

ブローグ？始まりの為のお話

「そつちにトラえもんいったぞ！」^猫

「任せる俺の666個ある必殺技で捕まえてみせよう…ってなにこれ！？」

でかいって、いやムリムリこんなやつ捕まえるの、勇者っ！パス」

今、俺たちは猫を捕まえようとしている。

それは、飼い猫が逃げ出したわけでもなく。

俺たちが探偵で迷子の猫を捕まえろ、という依頼をしているわけでもない。

これは何の前触れもなく行われる俺たちの部活動だ。

そう、

帰宅倶楽部のな！

すいませんでした
ちよつと格好良く決めようと思ったら、よく分からなくなってしまった。

説明がなさ過ぎたね。

まず俺の紹介からさせて頂こう。

名前はひのきあきとめ檜昇雨 子供のころからよく、変な名前だとか

DQNネームだなwとかよく言われてきた。

しかし、それはまだましだった。とある少年が言った一言で俺の青春は

笑われるという運命を辿ることが確定した。

その一言とは…

「お前の名前『ひのきのぼう』ってよめるね」

これ以来俺のあだ名はドラクエの勇者となり
長すぎるということで勇者となった。

おかげで、不良に絡まれるわ、犬に噛まれるわ、妹に

「おにいちゃん何か臭い」

と真顔で言われるわ…とにかく良いことがなかった

「おい勇者ばさつとすんな、食い殺されるぞ

そいつ俺の第398番目の必殺技が効かなかったからな！」

この馬鹿みたいな一（というか馬鹿）ことを言っているのが
俺の運命を変えた元凶『秋田透』だ。

この男は自称666の必殺技を持つ男で、身長は178cm体重…
いやこの男に時間を使うのはもったいない簡潔にまとめよう
こいつは

馬鹿だ

それも筋金入りのな

ひとまず話はこれくらいにしよう
なぜそんなことを言うのかって？
それは、

俺の目の前に、全長1mはあろうかという巨大な猫、
いや化け猫が現れたからだ。

「なっなんっじゃこらあああああああ」

某刑事ドラマを彷彿とさせる叫び声をあげてしまった

「新人部員B！そいつ捕らえろ！」

「いやいや無理っすよこんな化け猫！」

「馬鹿野郎！部長命令だ！早くしねえと明日の
てめえの昼飯がマリモになるぞいいのか？ああ！？」

「そんなむちゃくちゃな脅しされても、無理なものは無理です…っ
てわあああああああああああああああああああああああ
あ」

話している最中にもかかわらず俺の胸にダイブしてきた化け猫
その重量は見た目の大きさに比例していた。
トラえもん

「うんっ、ここはどこ私はどちら様？」

「なんで敬語なんだよ」

「目覚めたみたいだな、新入部員B」

どうやら俺は気絶していたらしい

「すいませんでした…って何で俺が謝んなきゃならないんすか！？
だいたいあの化け猫は何ですか！？っわああああああああ！

思い出したらめちゃくちゃ怖いじゃないかああああああああ！」

「うるさい奴だなだいたいお前のせいでトラえもん逃がしたじゃないか

どう責任とってくれるんだ？おまえの靴に松ぼっくりつめるぞ！」

いろいろあつたせいで紹介し忘れていた。

このよく分からない脅しをしてるのが、この帰宅倶楽部部長『森
本守雄』だ。

俺の貴重な青春タイムの大半を奪っていく「馬鹿」とはまたちがつ
た馬鹿だ

「何呼び捨てしてんだよ、ていうか誰が馬鹿だ！？」

声に出てしまっていたらしい、そして俺の頬には赤いあざが出来た。
この人のシッペは意味不明に痛い。

とにかく、この人はこの人で俺の運命を捻じ曲げた人間だ。
そうあの時あの一言を言わなかったら…

そう

「俺は帰宅部だよ」

だ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1578s/>

「帰宅部」いいえ、「帰宅倶楽部」です。

2011年10月8日23時29分発行